



2009.11 月号 Vol. 21

編集・発行／リプロネットみやぎ

CONTENTS

- 若者の市民活動体験を終えて
- イベント開催のお知らせ

さる10月29日、「若者のための市民活動体験～リプロダクティブ・ヘルス／ライツ なぜ、重要なの？～」を開催いたしました。その内容についてご紹介します。

**「若者のための市民活動体験
～リプロダクティブ・ヘルス／ライツ なぜ、重要なの？～」記録（要約）**

■リプロネットみやぎ代表 村口喜代さん

本日は、「若い方々にもこういう活動に参加して欲しい」との願いをこめて準備いたしました。皆さんは「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ(reproductive health/rights 以下、RHR)」については大学の講義でも学ばれているようですが、この概念は人間社会のすべてを包括しますので、ある意味とても難しく、何度聞いても勉強になると思います。ぜひ復習も兼ねて聞いてください。

RHRが国際的なコンセンサスを得たのは1994年の国連・国際人口開発会議(カイロ会議)でした。「性と生殖に関する健康と権利」と訳されていますが、もっと分かりやすく「女性の健康と権利」と言い換えることができます。男性でも「男性自殺率の増加」「勃起障害」「男性更年期障害」など、いろいろ健康問題がありますが、なぜ女性に限定したのでしょうか。それには理由があり、まず「女性は妊娠するしきみを持つがゆえに生ずる生命と健康の問題がある」ということ、次に「社会的・文化的に規定された性差(ジェンダー)があり、結果として女性が差別されてきたことで女性の健康問題が顕著である」ということです。そして「RHRという言葉は、何よりも苦しんできた女性たちが使い始めた言葉であった」ということです。ようやくジェンダー間の不平等を解決しようと、国連主導で1979年の女性差別撤廃条約が締結されました。健康問題の基本が国家管理から個人、人権の尊重へと視点が転換され、1994年のRHRのコンセンサスとなりました。現在はさらに進化し、RHRを「性の健康」という包括的概念の中で捉えられるべきというところにまできています。それは女性ばかりではなく男性のRHRをも含むということです。女性、男性、そして多様なセクシュアリティを持った人々、つまり人類すべての「性の健康」という大きな課題が重要であるということです。とはいえ、理念としては進化してきましたが、やはりまだまだ女性側の問題が深刻である現実には変わりはありません。

さて、昨今の男女の経済格差の拡大、「女性の貧困」という問題も軽視できないことです。国のデータからも非正規雇用者率は特に女性において深刻であることが示されています。経済格差は男女の関係性に深く影を落とし、「性の健康」問題を誘発することでしょう。

最後になりますが、今回男女共同参画白書や基本計画などを読み返しました。2005年までは「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」という



言葉があるのですが、2006年以降は白書からその言葉が消えました。RHRの個々の問題については取り上げられているのですが、RHRの本質的部分が見えづらくなってきているのです。また女性差別撤廃条約に批准したわが国は、今年8月国連から審査を受け、賃金格差への懸念など、差別撤廃が遅々として進まない現状に対する厳しい指摘を受けました。

私たちリプロネットみやぎが市民活動を続けることの今日的意義、そのことを再認識させられています。

■リプロネットみやぎ役員・ハーティ仙台 八幡悦子さん

ハーティ仙台は、DVや性暴力被害者の支援の活動です。リプロがどれほど重要かは、ハーティの顧問が産婦人科の長池医師、村口医師、と、弁護士2名である事からもわかります。被害者は、性と生殖に関する(リプロ)健康(ヘルス)と権利(ライツ)を奪われてきたのです。デートDV(恋人間)が、避妊を主張できず妊娠してしまう、入籍するとDV(配偶者間の暴力)になります。絆が強くなり、暴力は激化し、離脱も困難になります。いかに、望まない妊娠時にも、すばやい情報と支援が大事か、がわかります。高校生のデートレイプに産婦人科で適切な緊急避妊、他処置が行われました。しかし、その被害者は相手が怖い。ハーティとしては、弁護士をいれての直接交渉、刑事告訴、民事損害告訴の説明をします。親族からの性被害者支援もします。説明、同行。弁護士面接、精神科受診、カウンセラーにつなぐ。未成年に診断書の費用提供もあります。結果、たとえ裁判をしなくても、被害者の恐怖心は減少します。ヘルスの情報にはライツが伴う事が大事です。



NPOは重い内容に取り組みますが、実は楽しいのです。5年、10年の長さで当事者のパワーアップを感じます。また、暴力の問題は、世界共通の問題であり、連帯して進んでいる実感があるからです。

■リプロネットみやぎ役員・仙台市立中学校養護教諭 北村志津枝さん



現在の小中学校では、性教育バッシング(平成15年7月の東京・七生養護学校の性教育に対する不当な弾圧)が始まった頃から、性教育の内容が学習指導要領で、事細かく制約を受けることが多くなり、なかなか積極的に取り組めない状況になってきたと思います。今回の政権交代で若干期待する面もありますが、授業時間数の大幅な増加や、総合学習の時間の削減などで、今までは何とか年間数時間の「生と性の学習」として時間を確保してきましたが、これからは難しくなってくると思われます。中学校の場合、中学校1年生の教科・保健で「性機能の成熟」という単元で、思春期の体の変化・排卵と月経のしくみ・射精のしくみ・受精と妊娠を学習します。4頁の内容を約1~2時間で進まなければなりません。中学1年生12~13歳の発達段階でまだ月経・射精の経験がない生徒にとっては、理解が困難です。2年生では身体に関する内容がほとんどなく、3年生後半に感染症・性感染症の予防・エイズが単元に出てきます。教科保健だけでは、なかなか自分の身体と知識をつなぎ合わせることは、難しいと感じます。そのためにも、例えば「生と性の学習」としてどの学年でも、総合学習の時間に時間を確保して実施していかなければ3年間継続した性教育は出来ません。

中学校卒業までは、高校受験の勉強が最優先であったのですが、進路が決まって全く性の知識がないまま、性産業の情報が氾濫している社会に無防備のまま放り出されています。

中学校卒業までに何とか、避妊・人工妊娠中絶について学んでいって欲しいと願っています。

■私立高等学校教諭 山口稔さん

高校教師になって28年。生徒たちに性についてどう伝えるか、試行錯誤してやっています。

僕は共通一次以前の世代で、中学の家庭科でいえば、女子は調理・被服室、男子は技術室に分かれていた時代、「私作る人、僕食べる人」というCMが物議をかもし、男性と女性の社会的性別役割が固定されていた時代に育ちました。自分たちの親世代もそうした考えが顕著な世代でしたから、ジェンダーに関することについて教わる機会は全くありませんでした。僕自身、女性のからだのしくみについての知識はほとんどなく、妊娠と月経との関係も教師になってから教科書で初めて知りました。



結局子供たちは教わらなければわからないのです。受験科目ではない「保健」は、授業として軽んじられている感がありますが、そこで扱うのは生徒自身の身近な問題であり、子供たちの自立を促す手助けとなる知識です。正しい性の知識について伝えていくことは、自立の4要件のひとつである「性的自立」に関わることです。

子供たちには、男性も女性も同じように性や避妊についての正しい知識を持つことの重要性や、女性が妊娠する性であることを理解し、性についてもお互いの思いを十分に話し合える関係性が大事だということを繰り返し話し伝えています。

性の正しい知識は、自分がどう生きたいのか、その生き方を実現するために必要な知識です。それを身につけて、子供たちには自分の人生も、パートナーの人生も共に尊重できる生き方をしてほしいと望んでいます。

■リプロネットみやぎ役員 太田洋子さん



リプロの理念、10年間の活動、コメンテーターのみなさんの具体的なお話からリプロの大筋をお分かりいただけたことと思います。今回は市民活動が課題ですので、市民活動としてのリプロを考えてみたいと思います。

村口先生は国の男女共同参画白書を見ると「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」という言葉が見当たらないと指摘されました。第一次「男女共同参画基本計画」(平成12年)では「リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する意識の浸透」という項目があったのですが、第二次計画(平成17年)では抜け落ちています。1995年の「カイロ行動計画」や北京女性会議でリプロの重要性が指摘された内容は詳しく記載されていますが、国の具体的な施策からは消されているのです。ジェンダーバッシングの嵐の中、最も標的にされたのがリプロでした。昔の性の国家管理意識が日本の社会の土台に見え隠れしているように思えてなりません。北村さんが性教育はやりにくくなったと話されました。東京都では人形を使って性教育を行なった教師にペナルティを科せられたということがありました。

だからこそ国や行政の干渉や制約を受けない自由な市民活動の意義があるのだと思います。活動経費は勿論会員の負担ですし、活動プログラムもテキストがあるわけではなく、事業も自分たちで企画し実施しているわけです。

だからこそ国や行政の干渉や制約を受けない自由な市民活動の意義があるのだと思います。活動経費は勿論会員の負担ですし、活動プログラムもテキストがあるわけではなく、事業も自分たちで企画し実施しているわけです。

「リプロネットみやぎ」は10周年を迎えました。記念セミナー「みやぎの女性、からだと性のホンネ！100名に聞きました」にはたくさんの方が参加され、改めてリプロへの関心の高さ、活動への期待を実感しました。小さな活動ではありますが、市民一人一人が豊かな人生をおくれるよう少しでも手助けとなる活動を続けたいと思います。皆さんもぜひ一緒に活動してみませんか。

■終了後、参加学生より

- このような活動に参加するのは初めてで、緊張しながらの参加でした。しかし、みんなでの話し合いあたりから、ほぐれてきて、とても楽しく参加することができました。本日はありがとうございました。
- 今回はリプロダクティブ・ヘルス／ライツについて、専門機関の先生からお話をお聞きすることができ、大変勉強になりました。大学の講義とは違った雰囲気、多様な世代の方々と話をするのができ、大変貴重な経験となりました。今後もぜひ続けていって欲しい企画です。
- リプロダクティブ・ヘルス／ライツという言葉はよく耳にしていたのですが、リプロネットみやぎの活動内容のお話を聞き、とても幅広い活動をしているということを知ることができました。また、改めて性教育の大切さを知りました。
- 様々な分野で活動されている方々に混じって、学生である私達も参加させていただいたことによって、視野が広がり、これからますます意識を高めて学んでいきたいと思いました。また今後については、積極的に学生と若者が参加できるようなプロモーション活動と、場の提供が必要なのではないかと感じました。
- 初めてこのような活動に参加させていただきましたが、思った以上にフランクな雰囲気で安心しました。女性に生まれたからにはきちんと自分の性に向き合おうと思っているので、良い機会になりました。どうもありがとうございました。



【男女共同参画推進せんだいフォーラム 2009 開催のお知らせ】

以下の日程で「男女共同参画推進せんだいフォーラム 2009 みやぎの女性からだ性と性のホンネ！ 100名に聞きました」を開催いたします。たくさんの方々のご参加をお待ちしておりますので、どうぞ皆様奮ってご参加ください。

(日 時) 2009年11月21日(土) 15:00～17:00

(会 場) エル・ソーラ仙台 大研修室

(テーマ) みやぎの女性からだ性と性のホンネ！ 100名に聞きました

(コメンテーター)

村口 喜代 (リプロネットみやぎ代表・産婦人科医)

福島かずえ (仙台市議会議員)

北村志津枝 (仙台市立中学校養護教諭)

山口 稔 (私立高等学校教諭)

(申込み) FAX: 022-292-0167 e-mail: repro@muraguchikiyo-wclinic.or.jp

リプロネットみやぎのホームページを開設いたしました。ぜひご覧ください。

<http://repronetmiyagi.fc2rs.com/>

編集後記

紅葉の季節もそろそろ終わり、冬本番となってまいりました。リプロネットみやぎでは、昨年の女性版アンケート調査に引き続き、男性版の調査もスタートいたしました。アンケートと返信用封筒を同封いたしますので、身近な男性にお声掛け・ご協力いただければ幸いです。(調査は無記名であり、調査票はすべてコンピューターで統計的に処理しますので、個人の秘密は完全に守られます。)

今後ともリプロネットみやぎを、どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)